

連載



4～6月の株式相場は、総じて堅調な動きとなりました。日経平均株価は4～6月に▲1.9%と小幅な下落となりましたが、米国株は1～3月ほどの上昇ではなかったものの、米S&P500指数で+3.9%、米ナスダック総合指数は同8.3%の上昇を記録しています。これまでの連載で、単一国の投資先としては米国株ファンド、インド株ファンドの残高が大きく、成長性の高さに資金が集まっていることを解説しました。米国とインドを除くと単一国ファンドの残高は限定的で、その他の資金はグローバル型など地域をまたいだものが中心となっています。

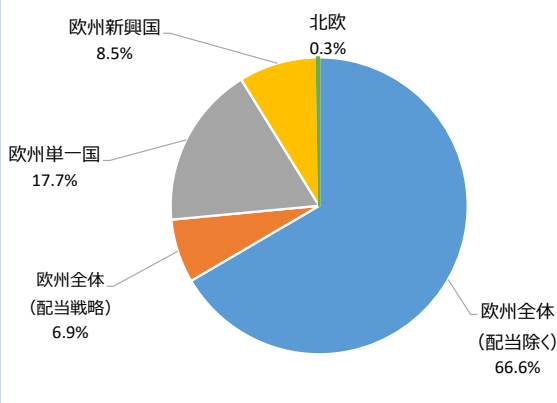
グローバル株式ファンドにおいて、米国とともに資産配分の中心となっている欧州株ですが、地域に特化した欧州株ファンドで見ると残高は大きくありません。しかし、米国株、インド株への資金が集中する中で物色される対象は徐々に広がっており、今年に入って地域分散ニーズから欧州株への資金流入も見られるようになって

ています。そこで今回のコラムでは、欧州株ファンドの資金動向を見ていきます。まず、欧州株ファンド全体の残高ですが、2024年6月末時点で2,200億円程度となっています。スイスやドイツなど単一国の株式ファンドもありますが、残高は限定的であり、その大部分は欧州全体に投資するファンドとなっています(図表1参照)。

欧州全体を投資対象とする欧州株ファンドについて、配当戦略とそうでないものに分類したのは、ファンド名に配当や分配が含まれているファンドへの資金流入が目立っているためです。欧州株ファンド全体の資金フローについて見てみると、新NISAがスタートした今年1月に、4カ月ぶりの資金流入に転じています。23年は12カ月のうち11カ月で資金流出でしたが、24年に入って6カ月で160億円程度の資金流入を記録しています。そのうち、「欧州全体(配当戦略)」に分類される欧州株ファンドの資金流入額は130億円程度となっています(図表2参照)。新NISAのスタート後に設定された新ファンドが販売好調だったという影響もあるのですが、欧州株ファンドへの投資において、配当や分配がより注目されているものと思われます。欧州株ファンドにおいては、総じて成熟している欧州先進国が投資対象となっており、成長性にフォーカスが当たっている米国株やインド株とは異なった特徴と言えるでしょう。

(執筆:BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 追加型・欧州株ファンドにおける残高のタイプ別内訳 (2024年6月末時点)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成

図表2 欧州株ファンドのタイプ別の資金流入 (2022年1月～2024年6月)

